

2023年3月期第2四半期 決算説明会 主要質疑

Q.PVDFについて。中国でリン酸鉄系 LiB が拡大しているが影響はあるか

A.我々は性能面で優位性を発揮できる市場を目指している。リン酸鉄系 LiB の拡大はあるが、欧米市場では今後も三元系 LiB が主流であると考えている。三元系 LiB はまだ開発の余地があり、顧客よりニーズもいただいております。今後も性能を追求していく。リン酸鉄系 LiB についても、差別化できるグレードの開発を進めている。

Q.いわき事業所 PVDF のデボトルネックはどのような規模、スケジュールか。また競合の能力増強も含め、今後のマーケットの変化は

A.中国新工場の審査が遅れており急遽いわき事業所で出来ることスタディを開始したが、まだ具体的にお話できることはない。今年度中に方向付けできるよう集中的に議論を進めている。競合他社の能力増強の情報も入ってきているが、三元系 LiB 向けについては、競合と当社の2社で大きなシェアを有しており、競争はあるものの短期的に大きく構図が変わるとは想定していない。マーケットの変化として、原料調達における地政学的なリスクがでてきていることがあげられる。PVDF 原料の北米からの調達もすでに開始している。計画中の新工場の次のステップとなるが、新しい工場立地についてもスタディを開始している。

Q.中国 PVDF 新工場の審査が遅れているとのことだが、許可がでてからどのくらいの期間で建設が終わるか

A.中国新工場については、2024年度中の貢献を計画していたが、若干遅れることは否めない。現在どれだけ工期を短縮できるか技術陣を中心に検討しているところであり、具体的には回答できない。

Q. PGA は既存の中高温領域での拡大を目指すとのことだが、足元の状況と今後の目処は。また新規となる低温領域に向けた取り組みと、コスト削減の具体的な施策は

A.足元では、中高温領域における当社 PGA プラグの顧客からの信頼が相当高くなってきている。さらに新製品の販売も控えており、期待ができる。低温領域の新製品はだいぶ目処が立ってきたが、最後の社内評価をしっかりとやっているところである。年内にはフィールドテストに持っていきたい。コスト削減は、新製品開発の目途が立ったことで研究開発費削減と樹脂製造工場の合理化を検討している。

Q.次期中期経営計画では、どのあたりが重点施策となるか

A.ここ10年で収益性、安定性ではだいぶ評価して頂けるようになってきた。この次は、クレハが技術立社として自社の技術を生かし、社会に貢献していく会社としたい。新中期経営計画では、既存事業の収益性拡大を継続しながら、新しい事業、新しい技術の創出に最大限の力を投入していきたい。

以上